

(15) 平成29年11月6日(月曜日) 映像新聞

(第三種郵便物認可)

【総合】

## NPO法人ワップフィルム 映画「未来シャッター」上映 2年以上連続のロングラン

### 観賞後に観客同士の対話の場

映画『未来シャッター』(高橋和勲監督/製作・著作・配給NPO法人ワップフィルム)は、2015年7月からキネマフューチャーセンター(東京都大田区)で一般公開をスタートし、今年7月に同会場での24カ月連続ロングラン上映を記録。現在も更新を続けている。ワップフィルムでは7月7、8日の2日間、連続ロングラン達成の記念上映イベントを開催。メインキャストと製作・技術スタッフも駆けつけた。

『未来シャッター』は、現代の社会に生きづらさを感じ、適合できない3人の若者が主人公。蒲田(神奈川)の街を舞台に、その地域に根付きながら世界へ挑戦する人たちの出会いによって、心のシャッターを開け新たな一歩を踏み出していく。同作品には、地域の関係企業100団体以上が協賛。ロケ場所提供のほか、商店街や町工場、ものづくりや観光事業、金

融機関、交通機関で実際に活用する人々がキャストとして登場している。また『未来シャッター』は、ユニークな上映形式を採用。観賞後に観客同士が語り合う「対話(タ イアローク)」の場を設けている。ワップフィルムでは映画を「課題解決のための手段」と位置付ける。高橋監督は「観賞

後の対話を通じて価値を再創造することが、従来の型の映画と最も異なっている点」と語る。プロジェクト立ち上げのきっかけは、社会問題の根源が「境界線」にあるのではないかと考えたことだ。国境や地域の行政のようには見えない境界線はむしろ目に見えない自分自身が

持っている心の境界線を生み出し、自らに基づき、勝手わがままな自由ではなく、自らで在り続けるための「自在」を覚えていくことで、自身に置き換えて対話することで、観客の意識や行動に変革や新たな何かが生まれるのではないかと期待がある。

2年間、上映と対話を重ねてきたことで、高橋監督にも新たな思いが芽生え、心のシャッターが自由になるためには、自在であることが重要なのだと感じ始めているという。

高橋監督は「自尊心が上がると、他人や社会のせいになくなる。当事者として自分の価値観を上げる」と語る。また、慶応義塾大学大学院の幸福学第一人者、前野隆司教授らの研究対象となり、複雑・大規模化する社会課題解決の新たな一歩、協創力創発のための対話型映画の提案」として経営情報学会の全国研究発表会でも取り上げられている。

高橋監督は「日本発映画による『オープンイノベーション』として、業界の底上げに貢献する」と述べている。



高橋和勲監督



キネマフューチャーセンター



映画「未来シャッター」では、上映後に観客が語り合う場を設けている

### KDDI 「ドローン」事業を支援 パッケージサービス提供

つた経験が、操縦代行・空撮サービス、行けるよう、少人数制でなくても安価な空撮サービスのレポーターとしての座学講習のほか、運用や操縦に関する実践的なトレーニングを実施。操縦代行・空撮サービスが可能。

DCAMフォーマットへのアーカイブ化を推進している。

本  
【プロダクション】  
事業を増  
IBC2017等  
機能向上  
【プロモーション】  
開催迫る  
各社がニュー  
開催3年目

http://w  
購読の

完パケ  
Qualesは放  
低コストソフ  
自動化による  
◆インジェス  
において、  
◆4K HEVC  
◆同時に複数  
◆PSE/カバ  
◆音声ラウド

Video Quality  
043.7000.7411  
0057.12

株  
VILLAGE  
Island  
TE  
htt

## The d&b Soundscape Demo at Inter BEE 2017

WUXXA 1080/60p  
bps 1080p  
AUDIO EMBEDDING  
TALLY

ライブプロダクションの  
映像・音響